

## 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果について

## 1 調査の概要

(1) 実施日 平成 30 年 4 月 17 日 (火)

(2) 対象

- ・小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年の全児童生徒
- ・特別支援学校小学部第 6 学年及び中学部第 3 学年の該当児童生徒

(3) 調査の内容

- ・教科に関する調査 (国語、算数・数学、理科)
- ・生活環境や学習環境等に関する質問紙調査 (児童生徒に対する調査 (以下、「児童生徒質問紙調査」という。))及び学校に対する調査 (以下、「学校質問紙調査」という。))

(4) 調査を実施した学校・児童生徒数

- ・小学校：356 校 (100%) 児童数：約 15,900 人
- ・中学校：158 校 (100%) 生徒数：約 15,600 人

学校数には、義務教育学校 (前期/後期課程) 県立特別支援学校を含む。

## 2 教科に関する調査の結果の概要

(1) 平均正答率

10 教科中 9 教科で全国の平均正答率を下回りました。中学校では数学 A で全国の平均正答率を上回りました。

【小学校】5 教科全てにおいて全国の平均正答率を下回りました。

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
H30	70.1(-0.6)	53.6(-1.1)	62.8(-0.7)	50.1(-1.4)	58.8(-1.5)
H29	73.6(-1.2)	57.0(-0.5)	77.4(-1.2)	44.6(-1.3)	*59.2(-1.6)

( ) の数値は、全国平均正答率との差を示す。理科の\*は平成 27 年度の数値。

- ・昨年度 (理科は平成 27 年度) と比べて、国語 B、算数 B で、全国との差が広がりました。(国語 B : -0.6 p、算数 B : -0.1 p)

【中学校】4 教科 (数学 A 以外) において全国の平均正答率を下回りました。

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
H30	75.3(-0.8)	59.7(-1.5)	66.6(+0.5)	45.7(-1.2)	66.0(-0.1)
H29	76.9(-0.5)	70.7(-1.5)	65.3(+0.7)	47.3(-0.8)	*51.9(-1.1)

( ) の数値は、全国平均正答率との差を示す。理科の\*の数値は平成 27 年度の数値。

- ・昨年度 (理科は平成 27 年度) と比べて、国語 A、数学 B で、全国との差が広がりました。数学 A は全国を上回っていますが、全国との差が縮まりました。(国語 A : -0.3 p、数学 A : -0.2 p、数学 B : -0.4 p)

(2) 過去4年間の平均正答率等の推移(全国の平均正答率との差)

中学校3年生は、小学校6年生時の調査(平成27年度)から、5教科中3教科(国語A、数学A、理科)で改善しました。

【小学校】

	H27	H28	H29	H30
国語A	-2.0	-1.2	-1.2	-0.6
国語B	-0.1	0.3	-0.5	-1.1
算数A	-0.4	0.7	-1.2	-0.7
算数B	-0.9	-0.1	-1.3	-1.4
理科	-1.6	-	-	-1.5

【中学校】

	H27	H28	H29	H30
国語A	-0.8	-1.2	-0.5	-0.8
国語B	-1.5	-2.2	-1.5	-1.5
数学A	-0.1	0.0	+0.7	+0.5
数学B	-1.0	-0.9	-0.8	-1.2
理科	-1.1	-	-	-0.1

【同一児童生徒(小6 中3)の伸び】

	H27	H30	差
国語A	-2.0	-0.8	+1.2
国語B	-0.1	-1.5	-1.4
算数A	-0.4	+0.5	+0.9
算数B	-0.9	-1.2	-0.3
理科	-1.6	-0.1	+1.5

各数値は、全国の平均正答率との差を示す。なお、差の数値は中H30-小H27を示す。

(3) 平均無解答率

10教科中6教科(小学校:国語A、算数A、中学校:国語A、数学A、数学B、理科)で全国の平均無解答率を下回りました(全国よりも良好な水準)。

【小学校】2教科(国語A、算数A)において全国の平均無解答率を下回り、両教科ともこれまでで最も改善が図られている状況です。

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
H30	2.98(-0.53)	3.89(+0.13)	2.03(-0.45)	8.26(+0.33)	1.23(+0.02)
H29	2.26(-0.51)	4.32(+0.01)	1.44(-0.15)	6.64(+0.22)	*3.26(+0.05)

( )の数値は、全国の平均無解答率との差を示す。理科の\*の数値は平成27年度の数値。

【中学校】国語Bを除く4教科において、全国の平均無解答率を下回り、数学Bはこれまでで最も改善が図られている状況です。

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
H30	2.89(-0.26)	3.01(0.00)	2.84(-0.44)	11.55(-1.06)	4.96(-0.08)
H29	2.01(-0.42)	3.72(-0.08)	5.39(-0.86)	10.95(-0.76)	*6.70(-0.28)

( )の数値は、全国の平均無解答率との差を示す。理科の\*の数値は平成27年度の数値。

(4) 課題が見られた問題

値は、三重県の平均正答率を、( )の数値は、全国の平均正答率との差を示す。

経年的に課題が見られる問題(国語:「引用したり要約したりしてかくこと」「根拠に基づいて自分の考えを書くこと」、算数・数学:「割合」「図形」)において、改善が進んでいません。また、小学校、中学校の国語において、主語・述語の関係に注意して文を書く問題に課題があります。

経年的に課題が見られる問題

【小学校国語】

(根拠に基づいて自分の考えを書くこと)

- ・【話し合いの様子の一部】を読み、言葉の使い方についての二人の意見のいずれかを取り上げて、80~100字で自分の考えを書く:32.7%(-1.1)

【小学校算数】

(割合)

- ・80人は200人の何%に当たるかを求める:50.2%(-2.7)

(図形)

- ・円周率を求める式として正しいもの(円周の長さ÷直径の長さ)を選ぶ

:39.0%(-2.6)

【中学校国語】

(要約)

- ・説明的文章を読み、「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を要約して書く：12.0%(-1.3)

【中学校数学】

(割合)

- ・表や問題文から団体料金 2940 円が通常料金 3500 円の 560 円引きとなっていることを読み取り、この 560 円は通常料金の何%にあたるかを求める式を書く  
：14.5%(-1.5)

本年度、課題が見られた問題

【小学校国語】

(主語・述語)

- ・文章中の各文について、主部と述部のつながりが合っていない文を選択し、主部はそのままにして、文の意味が変わらないように正しく書き直す  
：33.5%(-2.0)

【小学校理科】

(物の溶け方)

- ・400mL (400 g) の水に 12 g の食塩をとかしたら、量は 408mL になったが、その時の食塩水の重さを求める：38.4%(-4.3)

【中学校国語】

(主語・述語)

- ・「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにした上で、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く：20.1%(-2.2)

【中学校数学】

(確率)

- ・硬貨を投げる実験を多数回くり返したとき、相対度数の変化のようすについて 4 つの選択肢の中から、表の出る値が 0.5 に近づくことを選択する  
：37.2%(-3.0)
- ・大小 2 つのさいころを同時に投げるとき、出る目の数の和が 8 になる確率を表から求める：69.5%(-1.8)
- ・昼の放送で流す音楽を、A、B、C、D の 4 曲から選ぶとき、1 日目が A の曲、2 日目が B の曲となる確率を求める：40.6%(-3.3)

【中学校理科】

(要因を考察)

- ・アサリが出す砂の質量と明るさの関係について調べる実験において、1 つの要因(明るさ)を変える(蛍光灯の下と明るい窓ぎわの光の下で比較する)と、その他にも変わる可能性のある要因(水温、気温、温度など)を指摘する(記述式)：57.3%(-4.0)

3 児童生徒・学校質問紙調査の結果の概要 \* ( )の数値は、全国平均との差を示す。

(1) 学校の取組

昨年度「よく行った」と回答した割合が減少した取組の改善状況

全国学調の自校の分析結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用したかについて肯定的な回答の割合は小中ともに95%を超えていますが、「よく行った」と回答している割合は、小中ともに昨年度よりも減少しました。

ア 全国学力・学習状況調査等の活用

質問内容 (質問番号)	平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。 (小:31/中:30)
----------------	--

・「よく行った」と回答(トップボックス)

	H27	H28	H29	H30
学校質問紙(小)	36.1(-4.5)	49.2(3.0)	43.8(-0.6)	39.2(-3.5)
学校質問紙(中)	29.2(-3.8)	35.8(-1.3)	35.0(-0.4)	34.2(-0.1)

各数値は、「よく行った」と回答した割合を示す。( )の数値は、全国の「よく行った」と回答した割合との差を示す。

・肯定的回答

	H27	H28	H29	H30
学校質問紙(小)	98.1(2.3)	97.6(0.6)	98.9(2.3)	98.4(0.8)
学校質問紙(中)	94.4(1.2)	95.5(0.7)	94.2(-0.2)	97.5(1.4)

各数値は、肯定的回答割合を示す。( )の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

・小中学校ともに「よく行った」と回答した割合(トップボックス)は、全国を下回っています。また、昨年度よりも回答割合が減少し、改善が図られていません。

イ 保護者に対する家庭学習の働きかけ

質問内容 (質問番号)	調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、保護者に対して児童(生徒)の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか。(小:63/中:60)
----------------	--

・「よく行った」と回答(トップボックス)

	H27	H28	H29	H30
学校質問紙(小)	51.6(-2.2)	57.8(2.0)	53.4(-2.0)	52.1(-3.7)
学校質問紙(中)	29.8(-2.0)	35.3(-0.6)	38.2(3.2)	40.5(1.7)

各数値は、「よく行った」と回答した割合を示す。( )の数値は、全国の「よく行った」と回答した割合との差を示す。

・肯定的回答

	H27	H28	H29	H30
学校質問紙(小)	95.5(-1.0)	96.8(-0.5)	96.9(-0.1)	99.1(1.9)
学校質問紙(中)	80.7(-3.2)	87.4(-0.1)	90.4(2.8)	96.8(4.9)

各数値は、肯定的回答割合を示す。( )の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

・「よく行った」と回答した割合(トップボックス)は、昨年度と比較すると、小学校においては、回答割合が減少し全国との差も広がっています。中学校においては、回答割合が増加し全国より上回っています。

## 組織的な取組

小中学校ともに、調査結果等に基づき、課題の改善に向けたP D C Aサイクルの確立を「よくしている」と回答している割合が昨年度より増加していますが、全国と比較すると低い状況にあります。

### ア 授業改善 PCDA サイクルの確立

質問内容 (質問番号)	児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPCDAサイクルを確立していますか。(小:18/中:17)
----------------	---

#### ・「よくしている」と回答(トップボックス)

	H28	H29	H30
学校質問紙(小)	18.3(-7.9)	20.2(-8.7)	25.6(-9.2)
学校質問紙(中)	18.9(-4.3)	18.5(-6.8)	23.4(-7.3)

各数値は、「よくしている」と回答した割合を示す。( )の数値は、全国の「よくしている」と回答した割合との差を示す。H28から調査。

#### ・肯定的回答

	H28	H29	H30
学校質問紙(小)	86.0(-2.5)	89.6(-1.9)	95.5(0.6)
学校質問紙(中)	87.5(1.2)	84.7(-3.1)	90.5(2.6)

各数値は、肯定的回答割合を示す。( )の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。H28から調査。

- ・「よくしている」と回答した割合(トップボックス)では、小中学校ともに全国を下回るとともに、年々全国との差が広がっています。

### イ 校長の授業の見回り(週に2回以上)

質問内容(質問番号)	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか。(小:84/中:81)			
	H27	H28	H29	H30
学校質問紙(小)	95.4(2.3)	98.2(4.0)	96.6(2.1)	96.9(1.8)
学校質問紙(中)	81.4(0.0)	88.1(5.5)	88.5(5.0)	91.8(6.4)

各数値は、肯定的回答割合を示す。( )の数値は、全国の回答割合との差を示す。

- ・小中学校ともに、継続的に全国を上回っています。小学校は、平成28年度以降、全国との差が縮まっています。中学校は年々、肯定的な回答の割合が増加しています。

### 小学校教育と中学校教育の連携

全国学調の分析結果について、近隣の小中学校で成果と課題を共有している割合は、小中ともに年々増加し、全国を上回っています。

質問内容 (質問番号)	平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校(小学校)と成果や課題を共有しましたか。(小:34/中:33)		
	H28	H29	H30
学校質問紙(小)	59.7(10.2)	66.2(13.2)	73.3(10.0)
学校質問紙(中)	67.3(13.4)	70.7(13.9)	78.4(14.4)

各数値は、肯定的回答割合を示す。( )の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。H28から調査。

- ・小中学校ともに過去3年間、全国を上回っています。また、中学校においては、平成28年度から肯定的な回答の割合が年々増えています。

個に応じた指導（算数・数学における習熟度別指導の取組）

算数・数学における習熟度別指導の取組は、小中ともに増加傾向ですが、全国と比較すると低い状況にあります。

質問内容 (質問番号)	調査対象学年の児童生徒に対して、算数・数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか。(小:35/中:34)			
	H27	H28	H29	H30
学校質問紙(小)	15.3(-17.1)	13.4(-20.2)	17.7(-17.5)	20.0(-15.2)
学校質問紙(中)	13.1(-12.2)	12.0(-14.4)	26.8(-0.5)	23.5(-5.1)

各数値は、「年間の授業のうち、およそ1/2以上で行った」の回答割合を示す。( )の数値は、全国の回答割合との差を示す。

- ・小学校は、昨年度より肯定的な回答の割合は増加していますが、全国と比較すると依然として大きな差があります。

質問内容 (質問番号)	調査対象学年の児童(生徒)に対して、算数(数学)の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか。(小:36/中:35)			
	H27	H28	H29	H30
学校質問紙(小)	8.0(-15.4)	9.4(-15.5)	13.2(-12.6)	16.0(-9.7)
学校質問紙(中)	8.7(-11.1)	8.8(-12.1)	21.7(-0.2)	22.2(-0.7)

各数値は、「年間の授業のうち、およそ1/2以上で行った」の回答割合を示す。( )の数値は、全国の回答割合との差を示す。

- ・小学校、中学校ともに肯定的な回答の割合は増加しています。なお、特に小学校では、全国と比較すると依然として大きな差があります。

(2) 子どもたちの家庭における学習習慣・読書習慣

子どもたちの家庭における学習習慣・読書習慣は、昨年度に比べ、改善されていますが、全国と比較すると、小中学校ともに大きな差があります。

家庭における学習習慣・読書習慣

ア 平日の学習時間

質問内容 (質問番号)	・学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)(小:14/中:14)			
	H27	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	58.4(-4.3)	60.4(-2.1)	61.6(-2.8)	62.7(-3.5)
生徒質問紙(中)	66.5(-2.5)	65.2(-2.7)	66.5(-3.1)	67.5(-3.1)

各数値は、「1時間以上している」の回答割合を示す。( )の数値は、全国の回答割合との差を示す。

- ・小中学校ともに、年々、回答割合が増加していますが、全国との差は開いていません。

## イ 授業時間以外の読書時間（平日10分以上）

質問内容 (質問番号)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）（小:15/中:15）			
	H27	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	61.1(-3.1)	62.4(-1.1)	61.8(-1.5)	64.4(-1.8)
生徒質問紙(中)	48.6(-3.6)	46.4(-3.3)	47.7(-3.7)	49.6(-3.9)

各数値は、「10分以上読んでいる」の回答割合を示す。( )の数値は、全国の回答割合との差を示す。

- ・小中学校ともに改善傾向にありますが、全国と比較すると、依然として全国を下回っています。

## 放課後の過ごし方

	選択肢	H29	H30
児童質問紙(小)	1：家で勉強や読書をしている	58.0(-2.9)	60.8(-3.3)
	2：放課後子ども教室や放課後児童クラブ（学童保育）に参加している	6.4(0.2)	7.3(0.3)
	3：地域の活動に参加している（地域学校協働本部や地域住民に等による学習・体験プログラムを含む）	3.0(-0.3)	5.8(-0.3)
	4：学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	30.9(1.3)	33.0(0.8)
	5：習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている	47.8(5.4)	50.7(4.2)
	6：スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている	43.2(-1.9)	47.0(-0.2)
	7：家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている	74.7(2.1)	83.0(2.0)
	8：家族と過ごしている	63.1(1.4)	68.6(1.5)
	9：友達と遊んでいる	74.8(3.1)	78.0(3.5)
生徒質問紙(中)	1：学校の部活動に参加している	88.0(6.2)	88.0(5.8)
	2：家で勉強や読書をしている	37.2(-2.2)	40.6(-1.6)
	3：地域の活動に参加している（地域学校協働本部や地域住民に等による学習・体験プログラムを含む）	1.6(0.1)	2.7(0.4)
	4：学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	42.7(2.7)	44.7(2.6)
	5：習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている	17.4(2.3)	20.4(2.7)
	6：スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている	19.7(1.3)	22.2(0.6)
	7：家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている	71.5(2.7)	80.3(3.0)
	8：家族と過ごしている	47.4(3.2)	53.5(3.3)
	9：友達と遊んでいる	36.8(3.4)	42.7(5.8)

- ・小学校では、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしていると回答した児童の割合が最も高くなっています。中学校では、学校の部活動に参加していると回答した生徒が最も高く、次いで、家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしていると回答した生徒の割合が高くなっています。

### (3) 地域とのかかわり

児童生徒の地域行事への参加は、全国と比較して引き続き高い状況にあります。地域社会でのボランティア活動への参加は全国と比較しても低い状況が続いています。

#### 地域行事への参加

質問内容(質問番号)	今住んでいる地域の行事に参加していますか。(小:20/中:20)			
	H27	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	72.0(5.1)	73.1(5.2)	68.3(5.7)	66.7(4.0)
生徒質問紙(中)	50.7(5.9)	50.9(5.7)	47.2(5.1)	49.6(4.0)

各数値は、肯定的回答割合を示す。( )の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

- ・小中学校ともに継続的に全国を上回っていますが、平成30年度は全国との差が縮まっています。

#### ボランティア活動への参加

質問内容 (質問番号)	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。 (小:23/中:23)			
	H27	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	-	30.8(-5.4)	30.3(-5.1)	30.8(-4.8)
生徒質問紙(中)	-	45.7(-3.0)	46.3(-3.4)	47.7(-4.0)

各数値は、肯定的回答割合を示す。( )の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

H28から復活

- ・昨年度よりも、肯定的な回答の割合は高くなっていますが、過去3年間、全国を下回っています。

#### ボランティア等による授業サポートの実施

質問内容 (質問番号)	調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか。(小:54/中:52)			
	H27	H28	H29	H30
学校質問紙(小)	38.5(-2.1)	41.6(-6.5)	46.0(-3.9)	47.1(-2.1)
学校質問紙(中)	19.8(-4.4)	23.3(-6.5)	26.1(-5.3)	22.2(-10.8)

各数値は、肯定的回答割合を示す。( )の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

- ・小学校は、年々回答割合が増加していますが、全国を下回っています。
- ・中学校は、昨年度より回答割合が減少し、全国も大きく下回り、改善が図られていません。



(4) 子どもたちの自尊感情等

子どもたちの自尊感情は、年々高くなっています。また、意欲的に学習しようとする子どもの割合は、継続的に全国に比べて高いです。

自分にはよいところがある

質問内容(質問番号)	自分には、よいところがあると思いますか。(小:1/中:1)			
	H27	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	75.1(-1.3)	75.5(-0.8)	77.4(-0.5)	83.4(-0.6)
生徒質問紙(中)	69.4(1.3)	71.3(2.0)	73.2(2.5)	79.9(1.1)

各数値は、肯定的回答割合を示す。( )の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

- ・小中学校ともに、肯定的な回答割合が年々増加しています。

学習に対する興味・関心(算数・数学)

ア 新しい問題を解いてみたい、できるようになりたい

質問内容 (質問番号)	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。 (小:30)			
	数学ができるようになりたいと思いますか。(中:30)			
	H27	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	78.1(0.6)	78.0(2.2)	76.8(1.1)	75.6(1.3)
生徒質問紙(中)	92.0(0.5)	91.9(0.6)	92.3(1.1)	93.1(0.6)

各数値は、肯定的回答割合を示す。( )の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

- ・小中学校ともに、継続的に全国を上回っています。

イ 諦めずに方法を考える

質問内容 (質問番号)	算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。(小:31/中:31)			
	H27	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	79.7(0.1)	82.7(1.7)	82.0(0.9)	79.2(0.8)
生徒質問紙(中)	71.8(2.0)	75.3(3.2)	76.2(2.7)	72.7(2.4)

各数値は、肯定的回答割合を示す。( )の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

- ・小中学校ともに、継続的に全国を上回っています。

ウ 簡単に解く方法を考える

質問内容 (質問番号)	算数(数学)の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。(小:34/中:34)			
	H27	H28	H29	H30
児童質問紙(小)	78.0(-1.1)	81.7(1.2)	81.7(0.3)	78.8(0.3)
生徒質問紙(中)	68.3(0.8)	70.8(1.8)	72.9(1.7)	70.3(1.1)

各数値は、肯定的回答割合を示す。( )の数値は、全国の肯定的回答割合との差を示す。

- ・小中学校ともに、全国を上回っています。

#### 4 平成 29 年度の取組

##### (1) 小学校訪問による支援

- ・平成 29 年度下半期の取組として、市町教育委員会と協議のうえ、小学校への学校訪問（9 月、1 月）による支援を行いました。
- ・学校訪問にあたっては、1 回目の訪問（10 月）で校長と、平成 29 年度全国学力・学習状況調査結果を踏まえた課題認識と今後の取組内容を共有するとともに、校長、市町教育委員会、県教育委員会で課題の改善に向けた取組スケジュールを確認しました。2 回目の訪問（1 月）では、10 月以降の取組の進捗状況と年度末までの具体的取組を確認しました。

##### (2) 教育支援事務所による市町、学校の実情に即した支援

- ・各学校の支援計画を策定し、課題に対応した計画的・継続的な支援を行いました。
- ・支援事務所の指導主事と担当地域の市町教育委員会が各教科の授業の指導・改善ポイントを共有し、学校への指導・助言を行いました。

##### (3) 校長のリーダーシップによる組織的な授業改善の取組

- ・校長会との連携により作成した「授業参観シート」を活用した「校長の授業の見回り」、「めあての提示・振り返る活動」による組織的な授業改善について、学校訪問、県小中校長会、教員研修でその実施方法を説明しました。

##### (4) 全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック、ワークシート（学 Viva セット）の活用

###### 全国学力・学習状況調査の自校採点による早期からの授業改善

授業改善の P D C A サイクルの確立に向け、全国学力・学習状況調査の解答を自校採点することにより、子どもたちの学力や学習状況を把握し、早期からの授業改善につなげられるよう、自校採点研修会を 4 会場で開催（4 月）しました。

###### < 自校採点実施率 >

小学校 234 / 356 校（65.7%）

中学校 79 / 157 校（50.3%）

###### みえスタディ・チェックの実施

学習指導要領の趣旨・内容等に基づき、本県独自の学力調査として「活用に関する問題」を中心にした「みえスタディ・チェック」を実施しています。

- ・第 1 回みえスタディ・チェック（4 月実施）

対象学年：小学校第 4・5 学年、中学校第 1・2 学年

実施教科：国語、算数・数学、理科

- ・第 2 回みえスタディ・チェック（1 月実施）

対象学年：小学校第 5 学年、中学校第 2 学年

実施教科：国語、算数・数学、理科

###### ワークシート（学 Viva セット）の作成・活用

小中学校の教員及び市町教育委員会指導主事等を委員とする教科別のプロジェクトチームを編成して、全国学力・学習状況調査結果に見られるみえの子どもたちの課題に対応したワークシートを作成し、各学校での活用を促進しています。

- ・ワークシートは、年3回（9月、1月、3月）配信し、授業改善サイクル支援ネットからダウンロードできるようにしています。（H29:381本 総掲載数：2035本）
- ・学Vivaセット（全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの分析結果から明らかになった課題や経年的な課題に対応するワークシート集）を、年3回（6月、12月、2月）小中学校に配付しました。

#### （5）効果的な少人数指導の推進

- ・実践推進校105校（平成28年度は101校）を指定し、効果的な少人数指導の実践研究を行いました。
  - 小学校5年生：算数TT（26校）、算数習熟（21校）、国語TT（17校）、理科TT（17校）
  - 中学校2年生：数学習熟（24校）
- ・全国学力・学習状況調査とみえスタディ・チェックを活用して、効果の検証を行いました。

#### （6）教員研修による資質向上

- ・初任者研修（授業実践研修）において、「めあての提示・振り返る活動」、ワークシートの活用について周知しました。
- ・教員の授業力の向上に向け、国の調査官等を招へいした研修会（授業改善研修会）を開催（小学校国語、算数、理科、外国語活動、中学校国語、数学、外国語：計9回）しました。

#### （7）家庭における生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立

##### 家庭における生活習慣・学習習慣の確立に向けた取組

- ・県PTA連合会と連携し、生活習慣・読書習慣チェックシートの集中取組（年3回：5月、7月、10月）を実施しました。
- ・家庭における学習習慣の確立に向け、子どもたちが主体的に家庭学習に取り組めるよう、宿題用学Vivaセットを全小中学校に配付（10月）しました。
- ・学校・家庭・地域それぞれの役割に応じた取組を呼びかけるチラシを各家庭に配付（11月）するとともに、県内イベント（8月、11月）での啓発チラシや生活習慣・読書習慣チェックシートを配付し、周知・啓発を行いました。
- ・子どもを持つ保護者が、話し合いやワークを通じて子育てや家庭教育を学ぶ「みえの親スマイルワーク」を作成し、ファシリテーター養成講座を開催（1回：8月）、市町教育委員会へ活用を依頼するなどして、普及に努めました。

##### 読書習慣の確立に向けた取組

- ・読書の幅を広げるための取組（読書の楽しさひろげるビンゴカード）を小学校（68校、約12,000人）で実施しました。
- ・読書ボランティアや商業施設と連携し、主に未就学児を対象とした読み聞かせイベントの活動（7回）を促進しました。
- ・同世代同士で本を紹介しあうビブリオバトルの実施（延べ408人参加）や普及（講習会に10市町参加等）に取り組んできました。
- ・読書の楽しさや大切さを周囲に伝えられる子ども司書を育成（延べ9市町、79人）し、周囲の人に読書をすすめる活動を促進しました。

## 5 平成 29 年度の取組の検証と今後の方向性

### (1) 市町との連携による学校支援

県教育委員会として市町の課題認識、今後の取組内容を把握したうえで、県と市町とで学校の取組状況や子どもの学習内容の理解・定着状況を確認していくことの重要性について共通理解を図り、学校への支援を進めます。

< 小学校への学校訪問による支援 >

- ・学校の課題認識や取組状況（学校組織全体として行っている補充学習の取組内容、家庭学習の取組内容など）を十分に把握できず、市町と連携した学校への支援につなげられませんでした。学校の取組が確実に効果が上がるよう、市町との連携により、小学校への学校訪問（9月、11月、1月）を行い、学校の取組状況や子どもの学習内容の理解・定着状況を把握しつつ、学校の取組を継続的に支援していきます。

< 中学校への学校訪問による支援 >

- ・市町との連携により、中学校への学校訪問（10月、1月）を実施します。訪問は小学校と同様の内容で行い、学校規模や課題に応じて学校の取組を支援していきます。

### (2) 経年的な課題の克服に向けた取組

課題に取り組むことの周知にとどまり、各学校での取組の確認ができておらず、子どもたちの学習内容の理解・定着につなげることができませんでした。本年度は、経年的な課題の克服に向けて、次の取組を進めます。

「わかる・できる育成カリキュラム」の普及と効果の把握

- ・各学年の学習内容の積み上げが必要な小学校算数の「割合」「図形」について、全ての教員が小学校6年間の学習内容のつながりを理解し指導が行えるよう、指導資料「わかる・できる育成カリキュラム」を作成し、全小学校教員及び中学校に配付します。
- ・学校訪問等において活用状況を把握し、11月学 Viva セット（ワークシート）で子どもたちの学習内容の定着の状況を確認します。定着が図られていない場合は、子どもたちへの確実な学習支援を徹底し、1月みえスタディ・チェックで子どもたちの定着の状況を確認します。

数学的思考力を育成する PC 版学習教材「Think!Think!」を活用した取組

- ・「空間認識」「平面図形」等のイメージを子どもたちが身に付けられるよう、民間企業と連携して、PC 版学習教材「Think!Think!」を導入し、平成 29 年 11 月にモデル校（4 校）で活用をはじめました。本年度は、モデル校（17 校）において取組を進めます。
- ・モデル校での、子どもと学校へのアンケートにより、その効果を検証します。

ワークシート（学 Viva セット）の改善

- ・学校における学 Viva セット（ワークシート）の活用頻度や方法を、十分に把握できていなかったため、学習内容の定着状況を確認できるワークシートを作成して学校に提供するとともに、年度末の調査で活用状況を把握します。

みえスタディ・チェックの改善

- ・これまで毎回異なる問題を出題していましたが、1月実施分は、4月実施からの定着状況の確認や経年での比較検証ができるよう、これまで出題した問題や11月の学 Viva セットの問題を活用し、同一、同趣旨の問題で作成します。

- 「効果的な少人数指導推進ガイドブック」の活用による習熟度別指導の実施と検証
- ・加配定数や非常勤を活用して、小学校算数と中学校数学の少人数指導に取り組む学校については、「ガイドブック」をふまえつつ、その70%で主として習熟度別指導を実施し、学習内容の理解・定着を図ります。子どもたちの学習内容の定着状況について、ワークシート、みえスタディ・チェックの結果等により把握します。
  - ・実践推進校は、9月～10月にみえスタディ・チェックを再実施し、子どもたちの学習内容の理解・定着状況を確認します。

(3) 教員研修への体系的な位置付けによる学力向上取組の周知

- ・新任管理職、若手教員が増加する中で、教員研修を通じて、校長による授業の見回りにおいて参観の視点を持つことや、授業後の指導・助言、めあて・振り返りの効果的な実施について、教職員に十分周知できていませんでした。教員研修に学力向上の取組を体系的に位置付けることで、教職員の理解を深めます。

(4) 小中校長会との連携による校長を中心とした学力向上取組の推進

- ・全国学力・学習状況調査を踏まえた取組が各学校において確実に行われるよう学力向上部会と課題の改善に向けた、今後の取組方策等について協議を行い、9月からの学校での具体的取組につなげます。

(5) 家庭における生活習慣・読書習慣の確立

家庭における生活習慣の確立に向けた取組

- ・「みえの親スマイルワーク」の普及にとどまっていたため、ワークの未実施市町や進行役(スマイルリーダー)養成講座受講市町等において、スマイルリーダーが保護者等を対象に就学前検診、入学説明会等の場でワークが実施されるよう、ワーク進行について助言・支援を行い、実践活用を広げます。また、スマイルリーダーから実践事例を集めて把握し、発信することでワークの実施を拡大していきます。

読書習慣の確立に向けた取組

- ・ビブリオバトル、子ども司書などの読書が好きな児童生徒が参加する取組にとどまっていたため、今後、読書があまり好きではない児童生徒への取組を行います。

地域による学習支援

- ・中学校区における地域未来塾等、地域で学習支援を行う団体と学校の課題を共有し、子どもたちへの支援を行うことについて市町教委と協議します。